

2005年フォトコンベンション併設オーロラ展

「オーロラコンチェルト ～オーロラを見たい人、この指とまれ！～」企画書

開催日：2005年12月16日（金）～18日（日）

会場：札幌コンベンションセンター

札幌市白石区東札幌6条1丁目1・1

主催：オーロラコンチェルト実行委員会

協賛：普門エンタープライズ（株）

フォトコンベンション来場者実績：2003年...12,500名

2004年...14,500名

「現状の概要」

・企画の背景

2003～2004年の2年間、北海道フォトコンベンションの併設で行われた名古屋大学・太陽地球環境研究所の社会貢献プログラムの趣旨を受け継ぎ、今後は道内のオーロラ体験者を中心にオーロラをさまざまな切り口で一般向けに紹介していく。

・企画の目的

日本で唯一オーロラが観測可能な北海道からオーロラの魅力を発信していきたい。多くの人に地球上でもっとも美しい自然現象と言われるオーロラを身近に感じてもらい関心を持ってもらう。そして、オーロラの体験者を増やすことで、地球環境についての理解を深めて欲しい。

・企画の意義

過酷な宇宙環境の中において、地球は自らが持っている磁場と大気という「生命のバリア」のおかげで生命が保たれています。オーロラはその地球の磁場と大気、それと太陽との微妙なバランスのもとで存在しています。

オーロラを知ることは「地球上になぜ生命が存在出来るのか。そして人類は今何をしなくてはならないのか。」という重大な問題につながっていきます。

宇宙環境における、かけがえのない地球環境の価値を多くの人に知ってもらい、地球規模で物事を考える人が少しでも多くなれば、「この奇跡とも言える地球環境をいかに後世に残すか」という問い掛けにつながると信じています。

「現状と課題」

・現状分析

北海道は日本で唯一オーロラ観測が可能な地域でありながら、一般の人たちのオーロラに関する興味や認知が不足していると思われる。理由としてはオーロラに関わる機会が少ないためと思われる。

「計画」

・具体的活動策

写真、映像、文章、音楽など、オーロラをテーマに各々の得意な手法で表現する。

パネル出展：写真や文章により各々のオーロラ観を展開する。

撮影スタイル、エピソード、アドバイス等も紹介。

音楽：胡弓・カンテレ（北欧民族楽器）のオーロラをテーマにした演奏

映像：ビデオやスライドショーの上映。

スポンサー：ツアーデスクの設置（一般客参加型の催しにする。）

オーロラフリーマーケット：出展者が制作したオーロラに関わる書籍や絵はがきを販売する。（出展者は出展の為に自費で活動しており、その負担を軽減する目的も含む）

（詳しくは別紙「出展内容（案）」）

このイベントで告知したツアーの参加者に、来年の「オーロラコンチェルト」への参加を呼びかけ、写真展示とツアー販売をセットにして継続していくことが可能ではないか？ オーロラコンチェルトのイベント開催でツアー販売に貢献できるでしょう。

・課題

オーロラを科学的に解説できる専門員の手配。

複数人の展示をどのように割り振るか。

音楽・スライドショーとの時間、スペース、照明設備の調整

必要機材と予算の調整。

より多くの集客を図るための告知方法と告知のための予算確保（案内状の印刷費用など）

・スケジュール

(11月中) 各出展者の展示スペース(展示用パネル数)の確認。

(11/13) 第2回ミーティング

(11/18まで) 案内状の作成。フォトコンベンション web 掲載。

(11/ まで) 必要機材の確認。

(12/15まで) お手伝い係員の募集

(12/15) 設営